

1 2024年度CSOラーニング制度が始まりました！

大学生・大学院生を環境問題に取り組むNPO／NGOにインターン派遣する、CSOラーニング制度が今年も始まりました。25年目となる2024年度は5地区（関東・関西・愛知・宮城・福岡）38の団体で、65名の学生が活動をスタートさせています。

今年度は、6月には関東・関西2地区のキックオフ・ミーティングを、8月と9月は関西・愛知・宮城・福岡の4地区の定例会を対面で行うなど、コロナ禍以前の対面交流を復活させる試みをしています。特に対面での定例会は5年ぶりの開催となりましたが、やはりCSOの方にも参加いただいたの定例会だからその交流や学びが多くあることを実感しました。この数年間で定着したオンラインの利便性は引き続き活用しつつ、今後も効果的に対面交流を取り入れて制度を活性化していきたいと思えます。



また、8月末には全国合宿を開催しました。当初は2泊3日の宿泊合宿の予定でしたが、残念ながら台風10号による交通機関への影響を考慮して、急遽、オンラインによる1日半開催への変更を余儀なくされました。交流の機会は大きく制限されてしまいましたが、経団連自然保護協議会会長を務める環境財団の西澤理事長からは、「環境問題を取り巻く国際潮流」についての講演を、NPO birthの久保田潤一さんからは「都市における自然環境保全の推進」をテーマにご自身の経験を交えて生物多様性保全の最前線のお話をお聞きすることができ、ラーニング生にとって貴重な機会となりました。

その後は修了生10名との交流会も開催しました。インターン活動や進路についてのアドバイスはもちろん、修了後も自身の思いを実現するために社会で活躍を続ける修了生の皆さんの姿が、現役生にとって大いに刺激となりました。



夏期合宿修了生交流会

毎年恒例のミニプロジェクトを開始し、派遣先ではよりチャレンジングな業務に関わる機会も増え、後半に向けてインターン活動が本格化していきます。CSOラーニング制度後半の4か月間も、ラーニング生の皆さんにより一層充実した時間を過ごしてもらえよう、財団一同全力で活動をサポートします。

2 日本とインドネシアのラーニング生の交流会を行いました！

SOMPO環境財団では、インドネシアでも環境インターンシップ事業（NGO Learning Internship Program）を実施しており、年に一度両国をオンラインで繋いで同期のインターンでの交流会を実施しています。



意見交換の様子

今年度は9月25日に開催し、インドネシアからは14名、日本からは6名のラーニング生が参加して、お互いの国の印象や環境問題について、幅広く意見を交換しました。

例えば「気候変動の影響をどんな時に感じるか？」という話題に対しては、日本側から「四季の変化が崩れてきている」という印象が述べられた一方、インドネシア側からは「乾季が長くなり農業への影響が深刻」といったコメントがあり、両国の風土の違いが感じ

られる興味深いやり取りとなりました。また、ごみ問題が深刻化するインドネシアのラーニング生から「なぜ日本はどこに行っても街がきれいなのか？」という疑問が投げかけられると、日本の参加者からは「分別ルールが根付いている」、「学校での教育（自分たちで教室を掃除）」、「日本人の気質」など様々な要因が挙げられ、普段はなかなか気づかない自国の特徴を見つめ直すきっかけになりました。

交流会の最後には「ぜひ自国に遊びに来てください！」というメッセージが相互に交わられていました。今後も同じラーニング生として交流を深め、環境分野を志す同世代の仲間として絆を育んでくれることを期待しています。



記念撮影

Question

- ①. ラーニング生はどのような業務をしていますか？または、どのような業務をする予定ですか？
- ②. ラーニング生にはどのような期待をしていますか？
- ③. CSOラーニング制度についてお考えをお聞かせください。

01

特定非営利活動法人 ECOPLUS

老沼 里江 様



A①

ECOPULSの活動のSNSでの情報発信、特に若い世代への発信をお願いしています。もうひとつは、自然体験活動のサポートです。事前準備から現場でのサポート、事後の報告書づくり、アンケート分析など一連の活動をしてもらっています。

A②

ECOPLUSをたくさんの人により深く知ってもらうために、HPやInstagramなどで、特に若い世代への発信を期待します。どんな切り口や視点が共感を呼ぶのか、関心が高まるのか、過去の発信内容にとらわれず、若者ならではのアンテナや発想で展開して欲しいと思っています。大学とは違った様々な世代との接点があり、環境教育の現場での経験を通して、社会人になっても生かせる何かを吸収して欲しいです。

A③

インターン生、受け入れ側の双方にとって、とても良い制度だと思います。このような機会が無ければ、関心も持たず通り過ぎてしまう学生もたくさんいる中で、縁あってインターン生として、ECOPLUSの活動のサポートをしてもらい、経験を積んで次のステージに進んでもらえることは大変嬉しいことです。私達もインターン生を受け入れることで元気をもらうだけでなく、団体の活動の意義、本質を再確認できる機会を与えていただいていると思います。

02

公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)

吉田 美緒 様



A①

MELONに設置されている「ストップ温暖化センターみやぎ(宮城県地球温暖化防止活動推進センター)」の業務を中心に気候変動防止に向けたイベント出展やセミナー運営に関わってもらっています。

A②

気候変動問題は様々な問題にも繋がっていることから業務を通じて知識を身に付けると共に自分事として捉え、今後の活動に活かしてもらいたいです。業務の中で自分で企画を立てて実施してもらう事も目標にしているため、若者の視点で環境問題についてのユニークな企画を期待しています。また、当団体では様々な方と一緒に活動することが多く、その方々と繋がりを持つことで視野を広げてもらいたいと思っています。

A③

毎年新しいラーニング生との出会いを楽しみにしています。いざ活動が始まるともう8ヶ月間も経ったの!?!と本当にあっという間で寂しいですね(笑)。ですが、活動の中で我々も新たな発見があったり、ラーニング生が最初に来た時と比べ頼もしくなった背中を見送るのが嬉しくもあります。CSOラーニング制度は受け入れ団体にとっても、学生にとっても素晴らしい貴重な機会だと思っています。

2024年度「市民のための環境公開講座」を開催しています！

1993年から、公益社団法人日本環境教育フォーラム、SOMPOホールディングス株式会社と共催している「市民のための環境公開講座」。市民と共に環境問題を理解し、それぞれの立場で具体的に行動することを目指しています。

32年目を迎えた今年度は「Re-Think サステナビリティ ～ゆたかな"暮らしの9つのヒント～」を全体テーマとし、オンラインで開催しています。

第1回目は、東京大学大学院医学系研究科 橋爪真弘教授に、連日最高気温を更新し、これまでに経験のない暑さが続くなど、健康リスクも高まっている中、気候変動が与える私たちの健康への影響について講演をいただき、録画視聴を含め1200名を超える方々が視聴をしました。

11月13日まで多彩なテーマ、講師の方々による講座を開催しますので、ぜひお申込みのうえご視聴ください！

各講座の申込みおよび終了した講座のダイジェストは環境財団ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。



東京大学大学院 橋爪真弘教授

ダイジェスト掲載・お申込みはこちら



専務理事交代のご挨拶



6月21日付で就任いたしました。

これまで、営業活動の際に知ったかぶりしてお客様に環境問題を語ってきましたが、知れば知るほど奥が深く、また、環境問題に真剣に取り組んでおられる方があまりに多い現実に驚いています。

当グループ、当財団には、これまで、32年間継続している「市民のための環境公開講座」や25周年を迎える「CSOラーニング制度」など、長きにわたる環境問題への地道な取り組みがあります。

昨年は環境省から「気候変動アクション環境大臣表彰」(普及・促進部門)を、また、環境生活文化機構から「持続可能な社会づくり活動表彰」(ESD活動賞)をダブル受賞しています。これもひとえに、関係先はじめ、多くの皆様からのご支援の賜物と感謝しておりますし、今後、更にご評価いただけるよう精一杯努力する所存ですので、何卒よろしくご挨拶申し上げます。

中村 茂樹